

外国ルーツの子どもと家族の多様性 － 生活困難と親の就労 －

第128回労働政策フォーラム(2023年10月13日～19日)

外国にルーツを持つ世帯の子育てと労働を考える

国立社会保障・人口問題研究所

特任主任研究官 千年よしみ

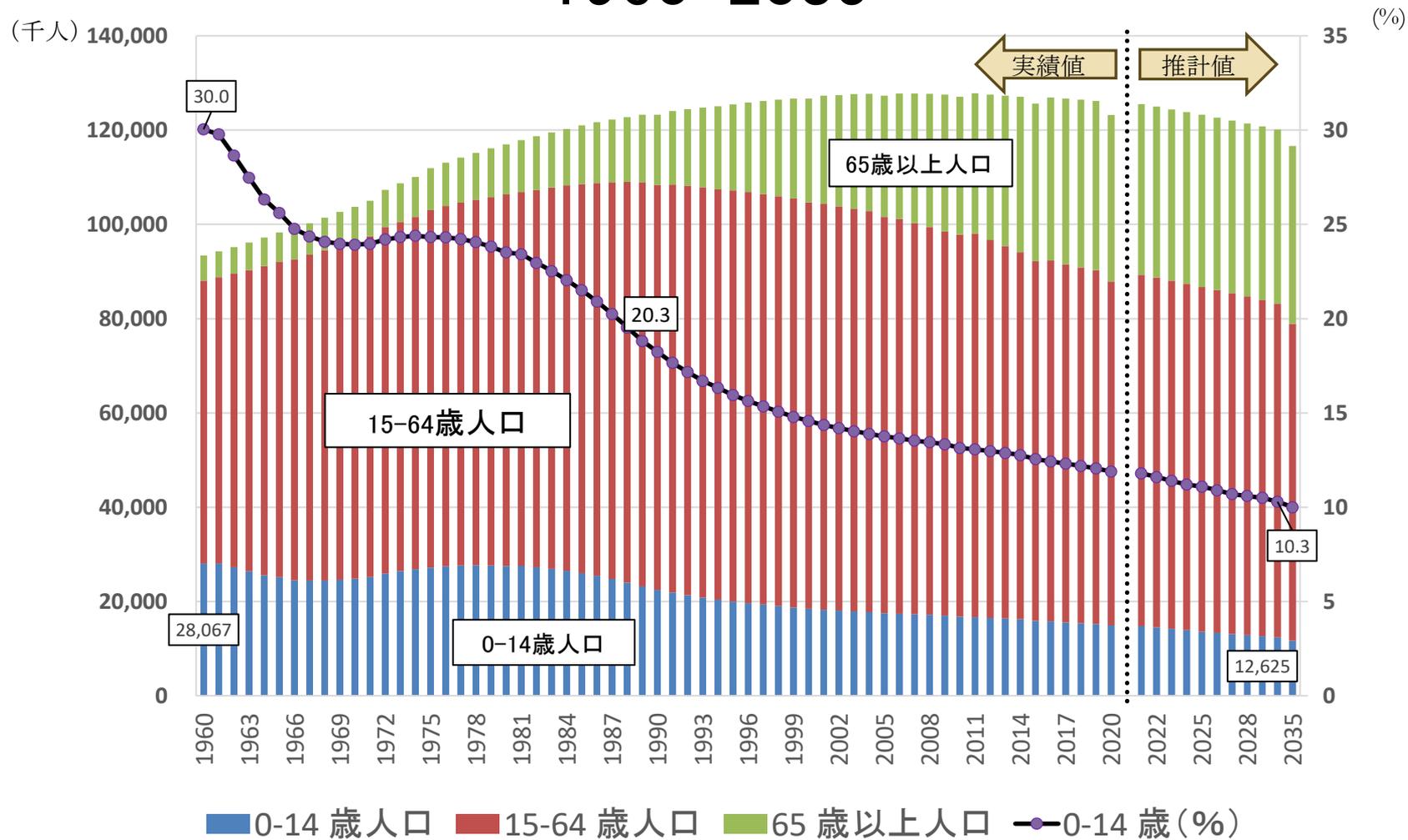
本報告の目的

外国ルーツの子どもの家族の生活実態を、生活困難度に焦点をあててデータから示す。

本報告での外国ルーツの子どもの定義： 保護者の両方またはどちらかが外国籍である子ども

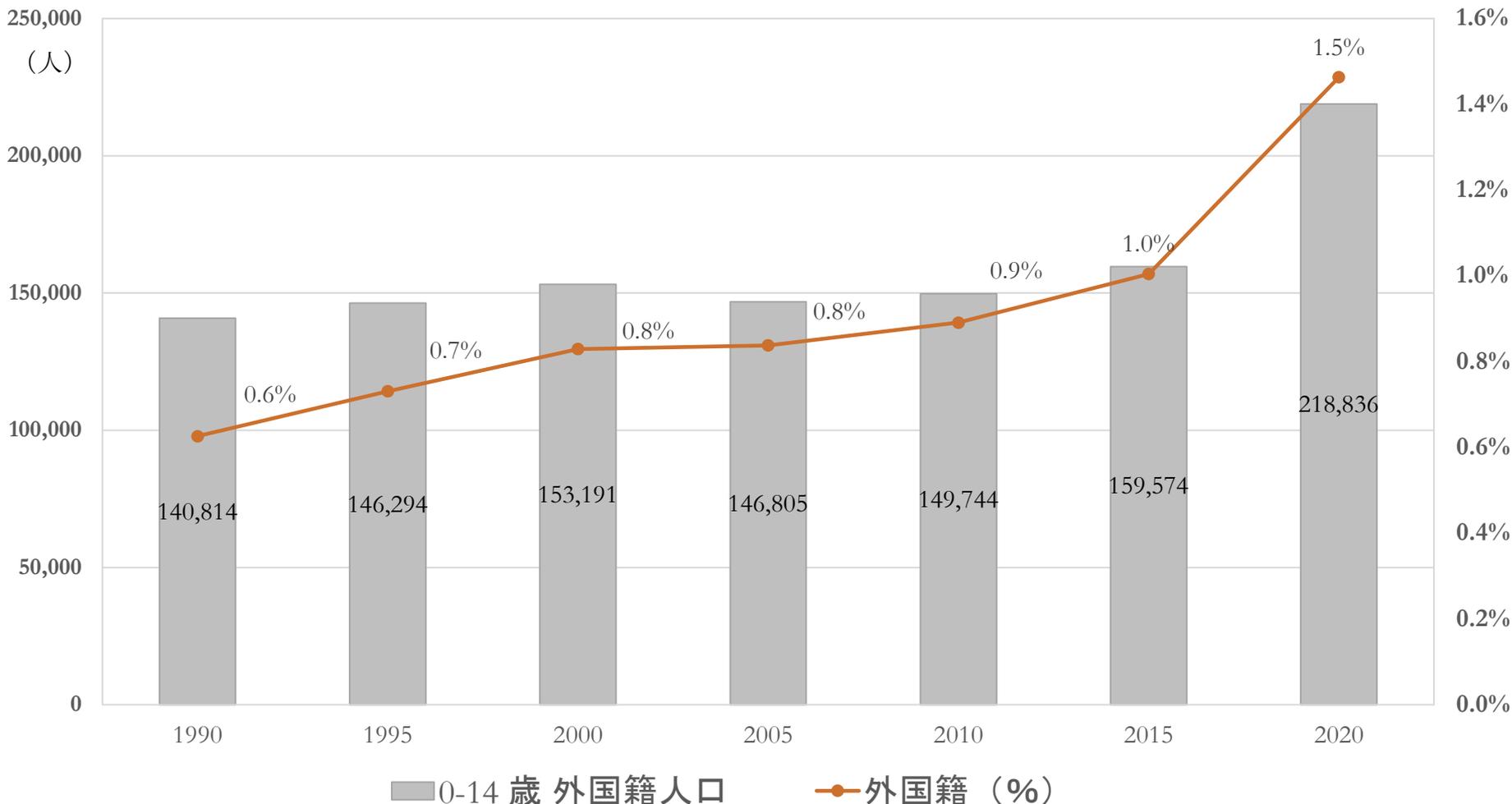
- 近年の外国ルーツの子どもに対する社会的・学術的関心の高まり
→ 外国ルーツの子どもの生活状況を定量的に把握したい
 - 外国人(大人)を対象とする調査は、自治体主体のものなど、ある程度の蓄積あり。
 - 外国籍や外国ルーツの子どもと日本人の子どもとの比較を定量的に行うことができない(比較可能な同一のデータが無い)。
- 東京都立大学 子ども・若者貧困研究センターで提供される「子どもの生活実態調査」(自治体実施)で、親の国籍が設問に入っていれば、外国ルーツの子どもと日本人の子どもを一緒に分析できる

年齢(3区分)別人口と年少人口(0-14歳)の割合: 1960-2035



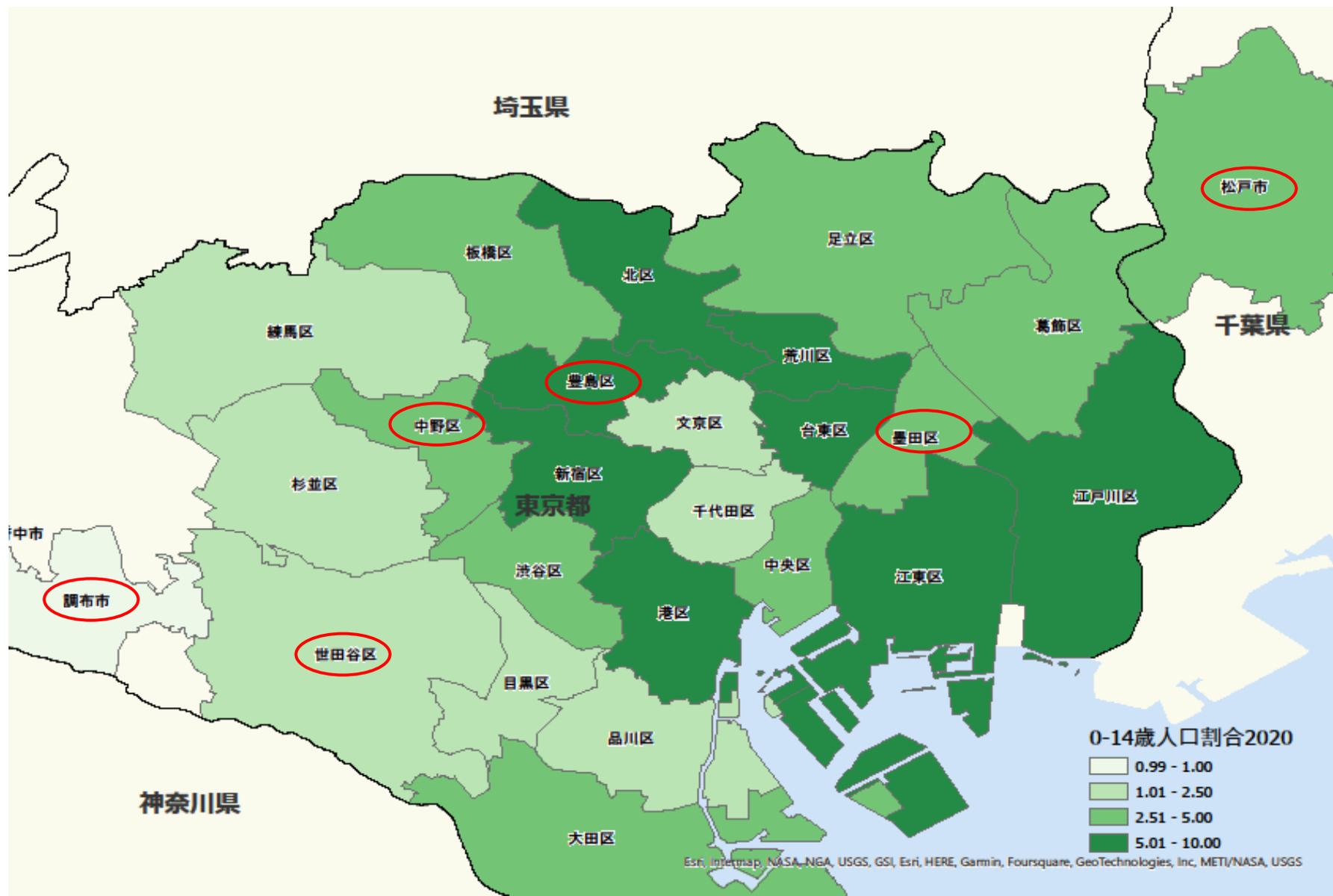
出所: 国立社会保障・人口問題研究所 『人口統計資料集2023年改訂版』

外国籍の年少人口(0-14歳)と年少人口に占める外国籍の子どもの割合:1990-2020

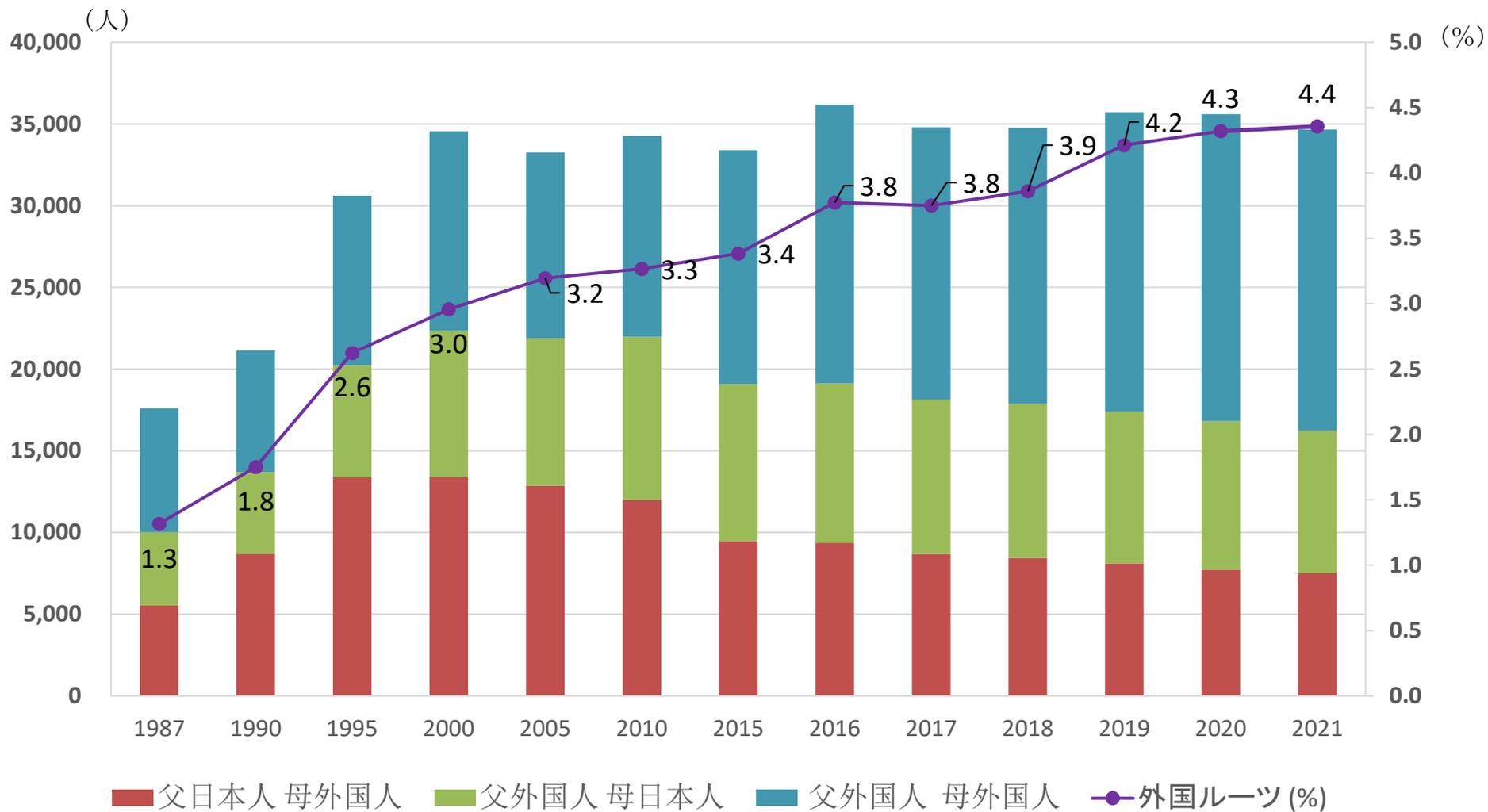


出所: 国立社会保障・人口問題研究所 『人口統計資料集2023年改訂版』

東京23区と松戸市における外国籍年少人口(0-14歳)の割合 2020年



父母の国籍別出生数と外国ルーツの子どもの割合： 1987-2021



出所：国立社会保障・人口問題研究所 『人口統計資料集2023年改訂版』

子どもの生活実態調査：調査の概要

	東京都			千葉県
	東京都子供の生活 実態調査	世田谷区子どもの 生活実態調査	中野区子どもと 子育て家庭の実態調査	松戸市子育て世帯 生活実態調査
	墨田区、豊島区、 調布市、日野市			
調査年	2016年	2018年	2019年	2017年
調査方法	郵送	郵送	郵送（一部ウェブ）	学校配布
調査対象	各自治体在住の 小学5年生・中学2年 生	世田谷区在住の 小学5年生・中学2年生	中野区に在住する小学 5年生・中学2年生	松戸市立小学校5年生の 全児童 松戸市立中学校2年生の 全生徒
対象者数				
小学校5年生	6,296	6,930	1,250	3,929
中学校2年生	6,785	6,516	1,250	3,740
総数	13,081	13,446	2,500	7,669
保護者票マッチング後有効回答率				
小学校5年生	44.9%	45.2%	27.0%	86.7%
中学校2年生	42.2%	39.9%	25.0%	83.3%
総数	43.5%	42.6%	26.0%	85.0%
n（保護者国籍不詳を除く）	5,663	5,694	639	6,424

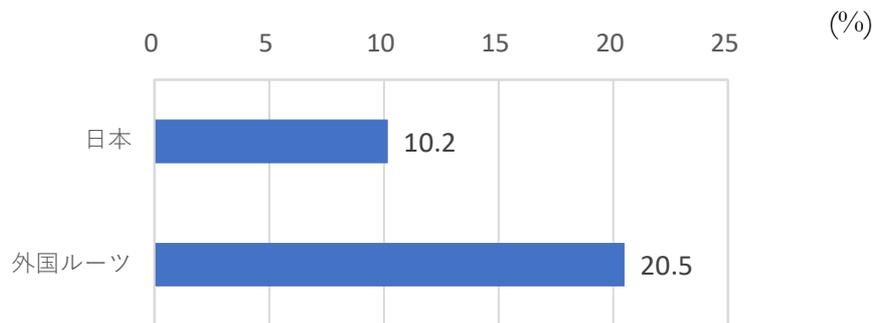
*生活実態調査を行った自治体のうち、保護者の国籍に関する設問が調査票に含まれている自治体のデータを統合して分析

子どもの生活実態調査：基本情報

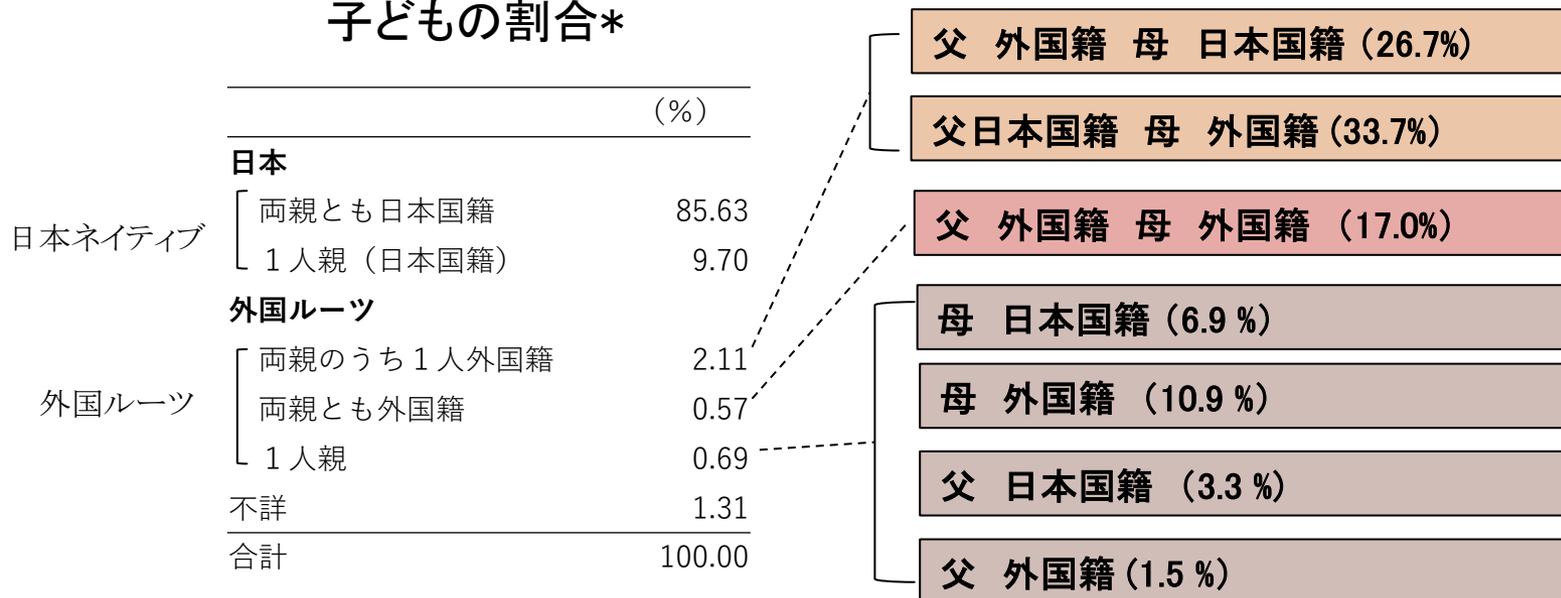
外国ルーツの子どもの割合



1人親の割合



子どものルーツ・世帯構成別にみた
子どもの割合*



*ルーツ別・世帯構成別では、両親非同居、保護者2人のうち1人の国籍がわからないケースは除外して算出

生活困難度の定義

低所得

等価世帯所得を厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」から算出される基準値と比較し、それを下回る世帯

2015年の場合
世帯所得の中央値
427万円 ÷ √平均世帯人数 × 50% = 135.3万円

家計の逼迫

1. 電話料金
2. 電気料金
3. ガス料金
4. 水道料金
5. 家賃
6. 家族が必要な食料が買えなかった
7. 家族が必要な衣料が買えなかった

上記7項目のうち、払えなかった・買えなかった項目が**1つ以上**

子どもの剥奪

1. 海水浴に行く
2. 博物館・科学館・美術館に行く
3. キャンプやバーキューに行く
4. スポーツ観戦や劇場に行く
5. 遊園地やテーマパークに行く
6. 毎月お小遣いを渡す
7. 毎年新しい洋服・靴を買う
8. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる
9. 学習塾に通わせる
10. お誕生日のお祝いをする
11. 1年に1回くらい家族旅行に行く
12. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
13. 子どもの年齢に合った本
14. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
15. 子どもが自宅で宿題をすることができる場所

上記15項目のうち、経済的な理由でできない項目が**3つ以上**

生活困難度

困窮層	周辺層	一般層
低所得、家計の逼迫、子どもの剥奪のうち、 2つ以上 に該当	低所得、家計の逼迫、子どもの剥奪のうち、 1つ に該当	いずれも該当しない

生活困難度を測るための設問

低所得を測るためには、世帯員数、世帯収入、社会保障給付に関する情報が必要。

全員におうかがいします。

問 22 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の 1回あたりの支給額はいくらですか。

(枠内に数字で回答してください)

※該当する収入がない場合には、0とご記入ください。

※兄弟姉妹等にかかわる手当等も含みます。

※「児童育成手当」「児童扶養手当」は、所得が一定水準以下のひとり親等世帯の支援のための補助金です。

		1回あたり金額	
A 児童手当	→	円	(4か月に1回支払われます)
B 児童育成手当	→	円	(4か月に1回支払われます)
C 児童扶養手当	→	円	(4か月に1回支払われます)
D 特別児童扶養手当	→	円	(4か月に1回支払われます)
E 年金(遺族年金、老齢年金など)	→	円	(2か月に1回支払われます)
F 生活保護	→	円	

収入や社会保障給付に関する設問は、意味が難しく、回答できない保護者の割合が高い。社会保障給付に回答しない保護者の割合は、特に高い。

日本ルーツの保護者で 37.1 %

外国ルーツの保護者で 47.2 %

生活困難度を測るための設問

家計の逼迫に関する設問

問 32 過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A 電話料金 →	1	2	3
B 電気料金 →	1	2	3
C ガス料金 →	1	2	3
D 水道料金 →	1	2	3
E 家賃 →	1	2	3

問 30 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった 2 ときどきあった 3 まれにあった 4 まったくなかった

子どもの剥奪に関する設問

問 26 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あ る	ない		
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A 海水浴に行く →	1	2	3	4
B 博物館・科学館・美術館などに行く →	1	2	3	4
C キャンプやバーベキューに行く →	1	2	3	4
D スポーツ観戦や劇場に行く →	1	2	3	4
E 遊園地やテーマパークに行く →	1	2	3	4

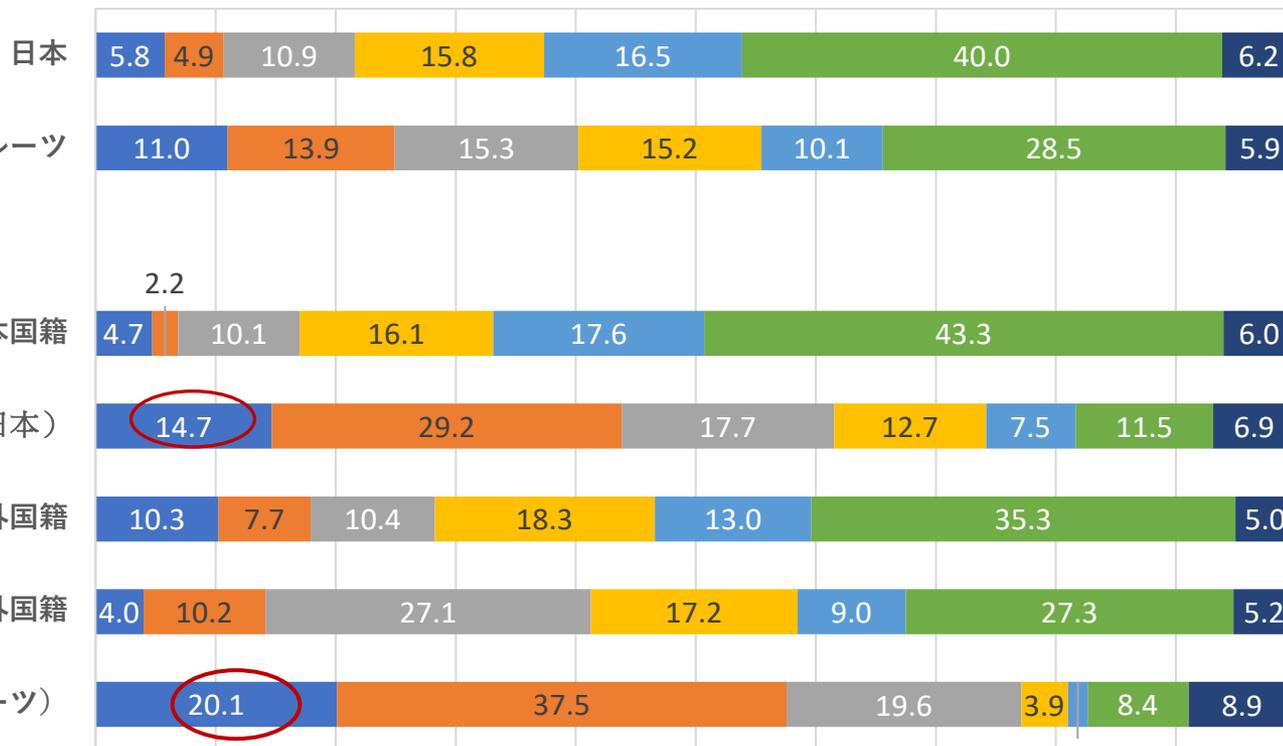
家計の逼迫と子どもの剥奪に関する設問は、外国ルーツの保護者でも比較的
回答しやすい。回答しない保護者の割合は、

日本ルーツの保護者で 1～3%

外国ルーツの保護者で 3～7%、3～5%

子どものルーツ・世帯構成別にみた世帯収入

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

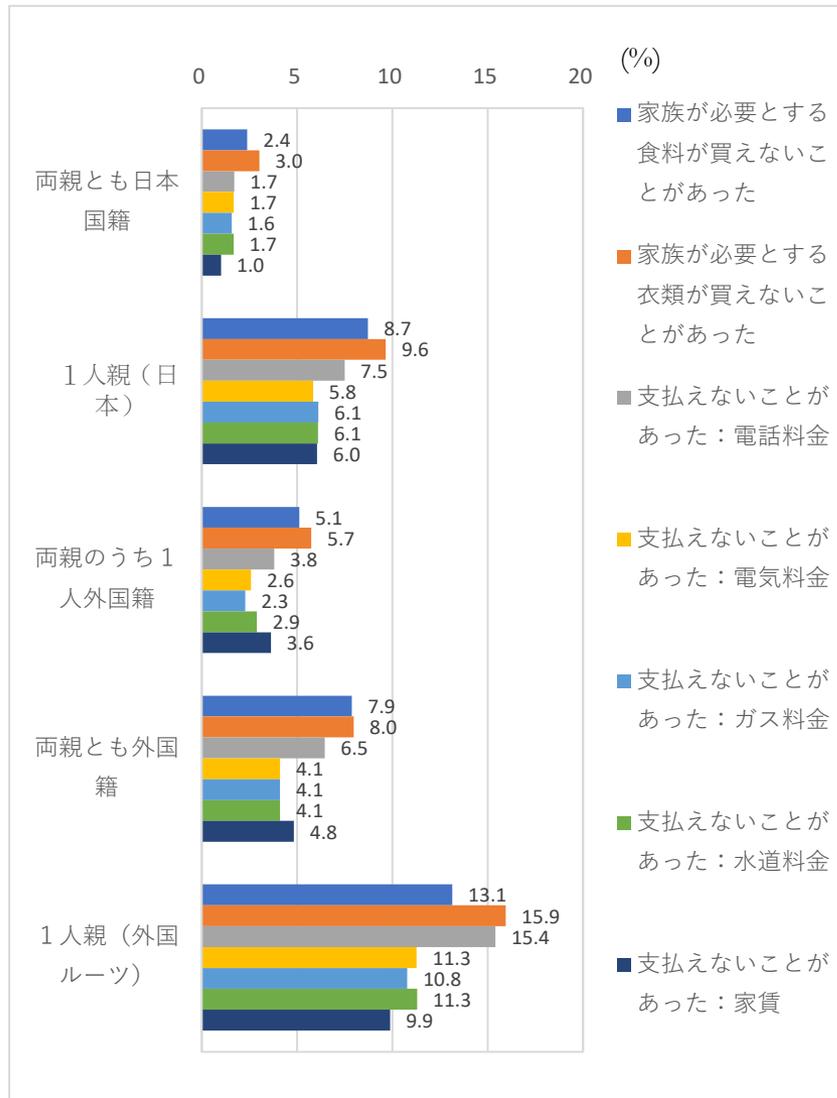
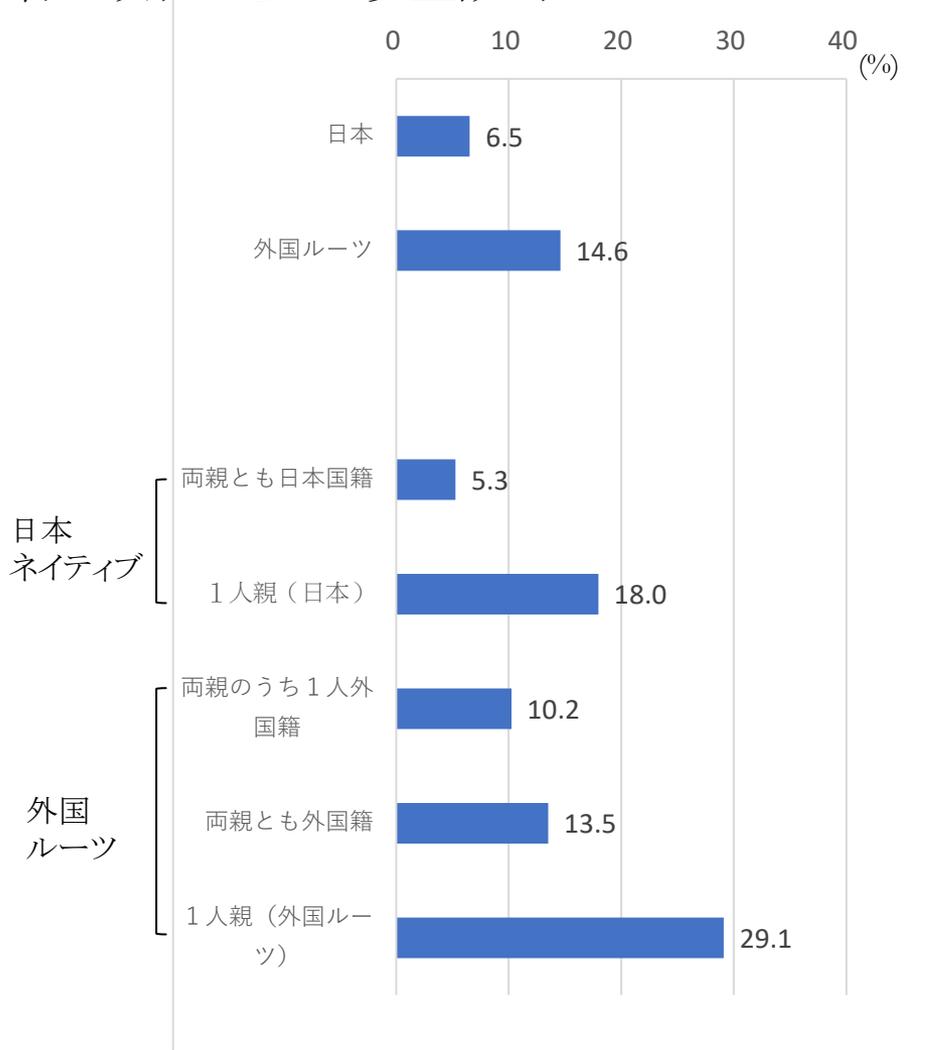


■ 100万未満 ■ 100-300万未満 ■ 300-500万未満 ■ 500-700万未満
 ■ 700-900万未満 ■ 900万以上 ■ わからない

外国ルーツの世帯で世帯収入は低い傾向。両親とも外国籍の場合、極端に収入が低いわけではない。1人親は日本・外国にかかわらず低収入の傾向。

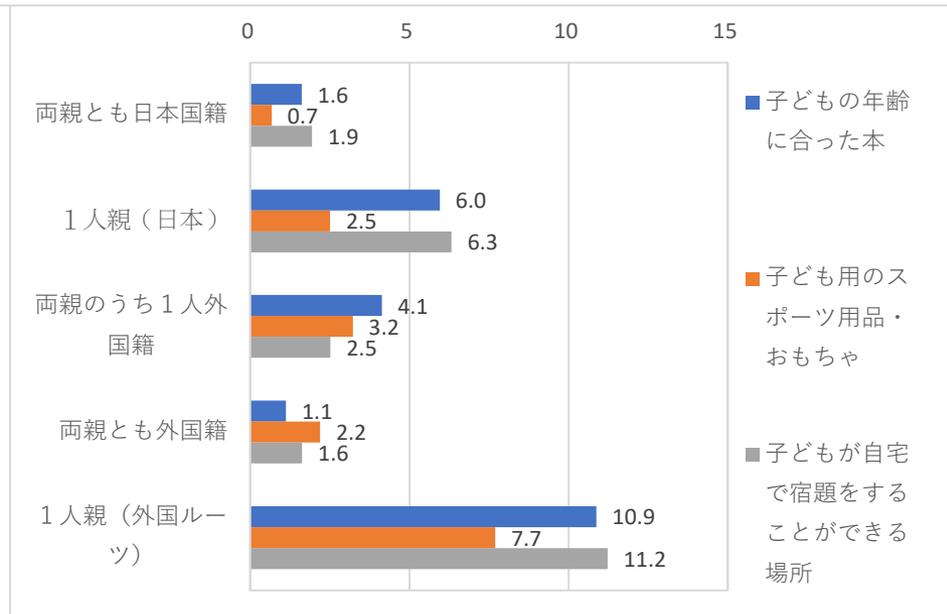
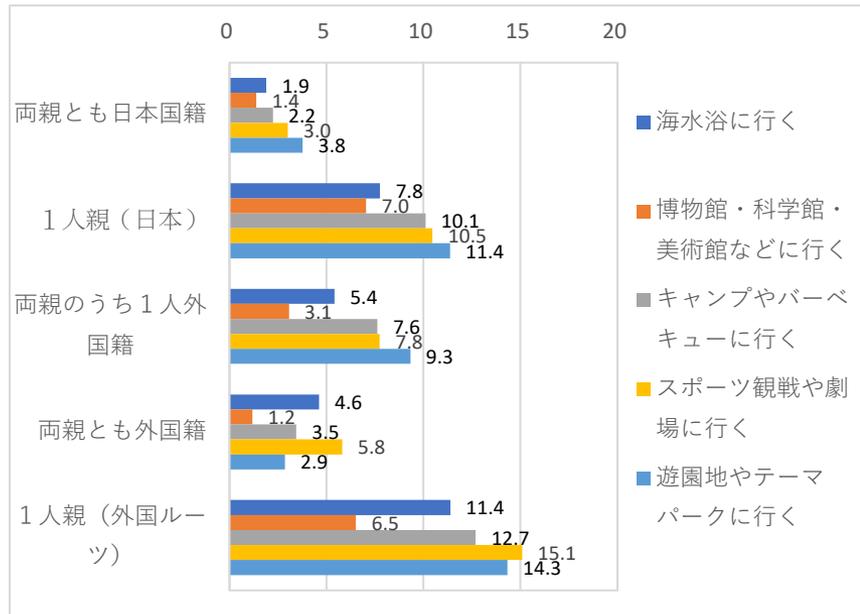
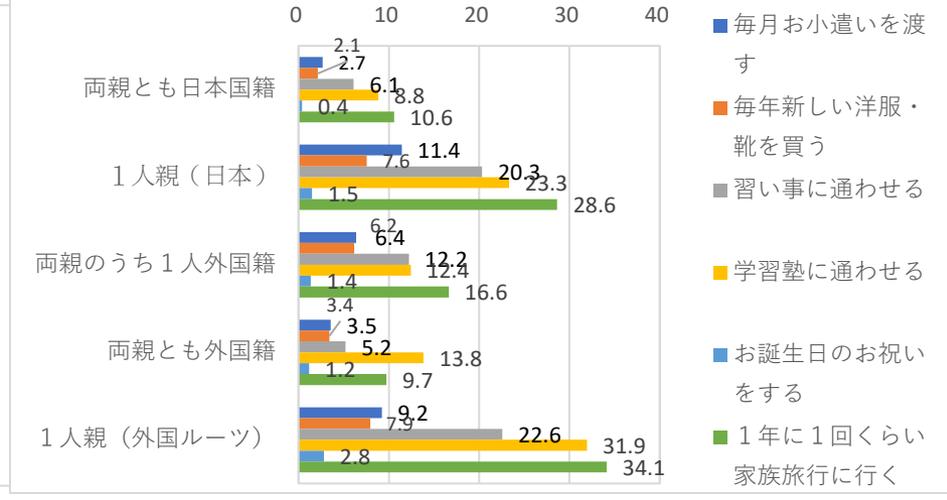
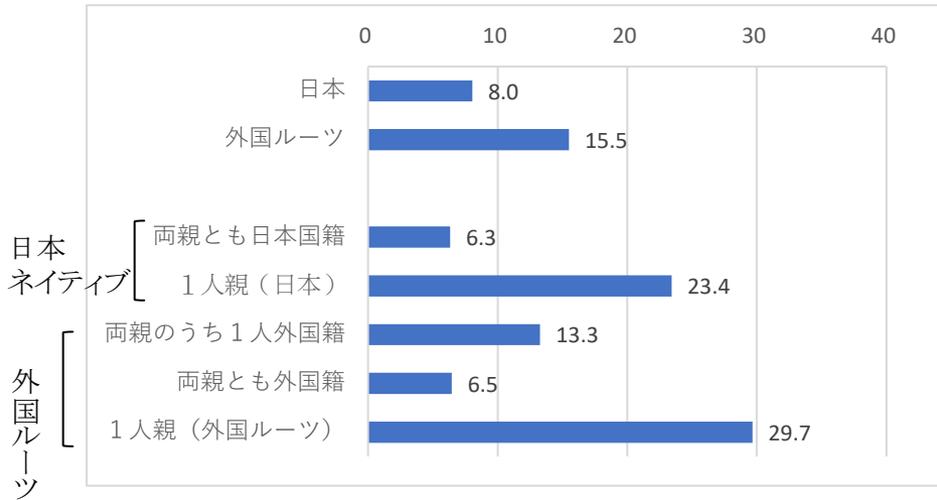
子どものルーツ・世帯構成別にみた家計の逼迫

右の項目から1つ以上該当

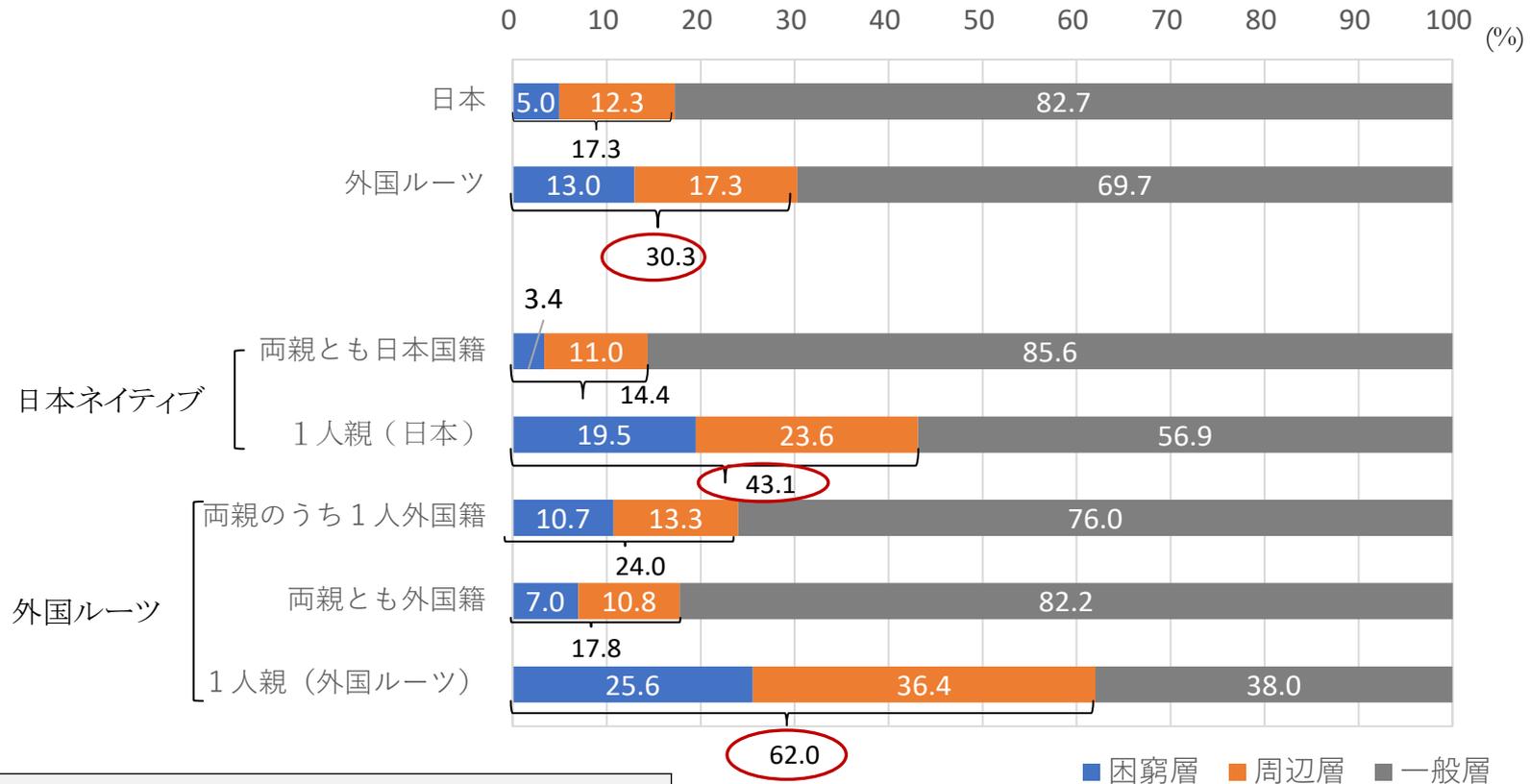


子どものルーツ・世帯構成別にみた子どもの剥奪

3項目以上該当



子どものルーツ・世帯構成別にみた生活困難度

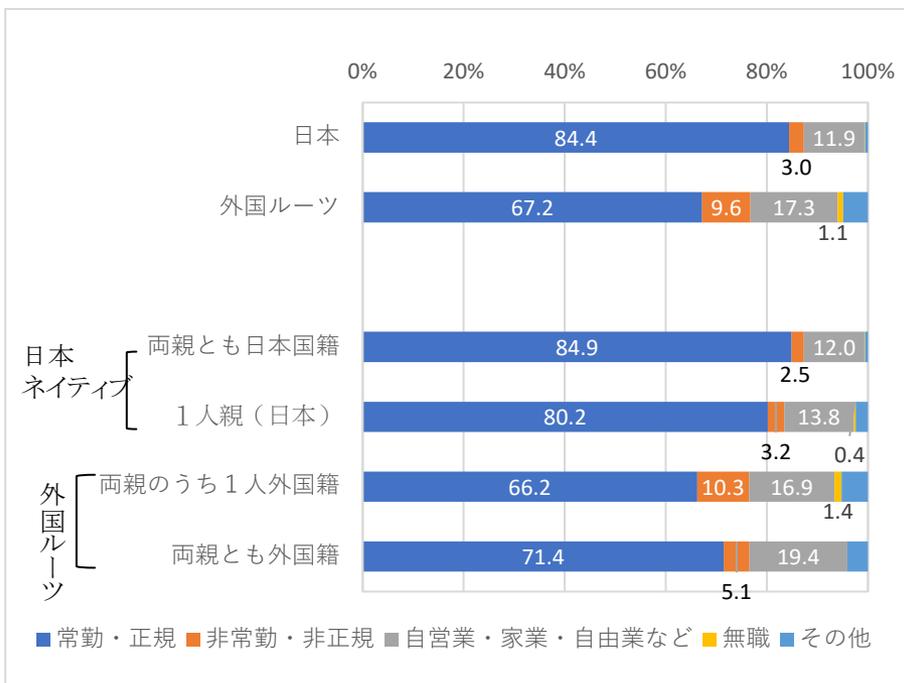


生活困難度

困窮層	周辺層	一般層
低所得、家計の逼迫、子どもの剥奪のうち、 2つ以上 に該当	低所得、家計の逼迫、子どもの剥奪のうち、 1つ に該当	いずれも該当しない

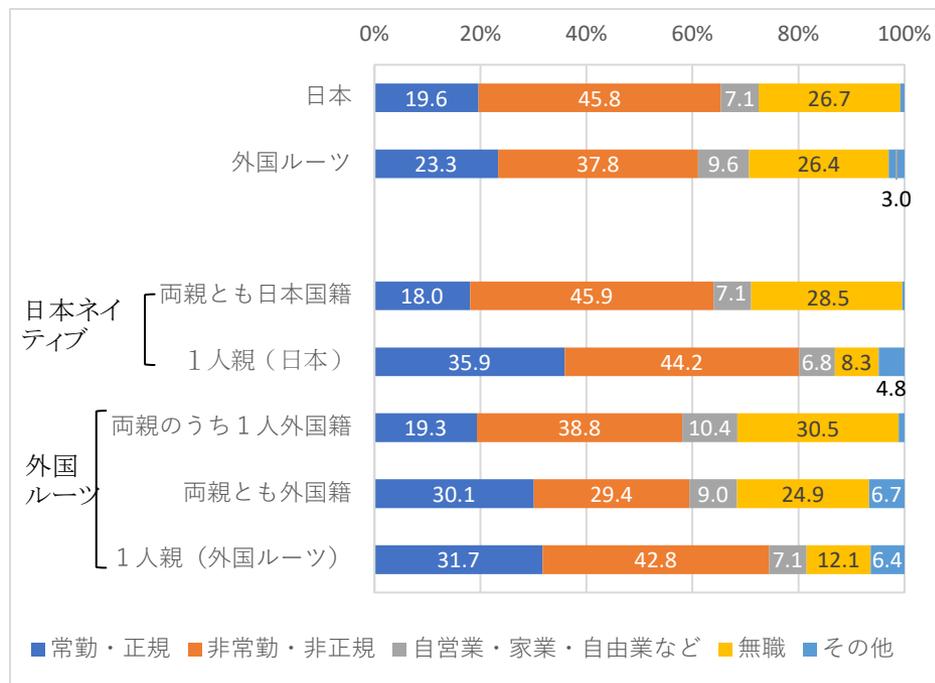
子どものルーツ・世帯構成別にみた親の就労状況

父親



外国ルーツの父親で、非正規、自由業の割合が高い。無職はほぼいない。

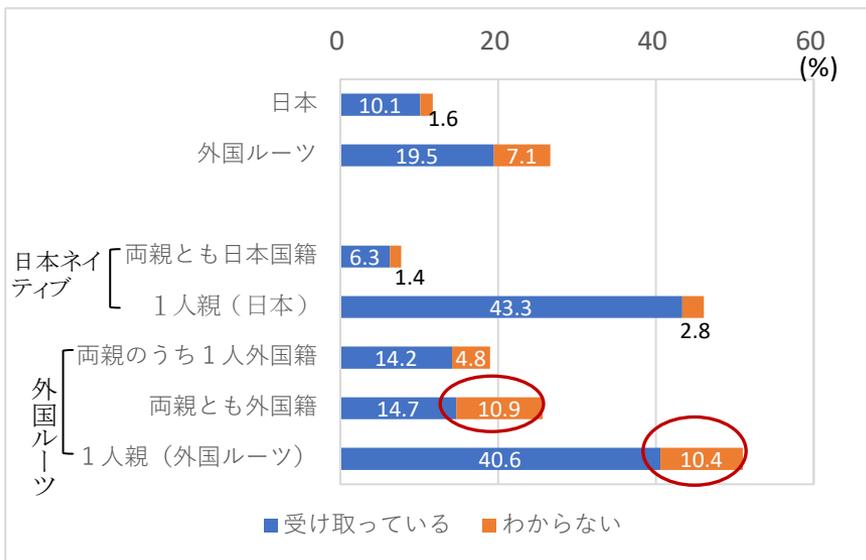
母親



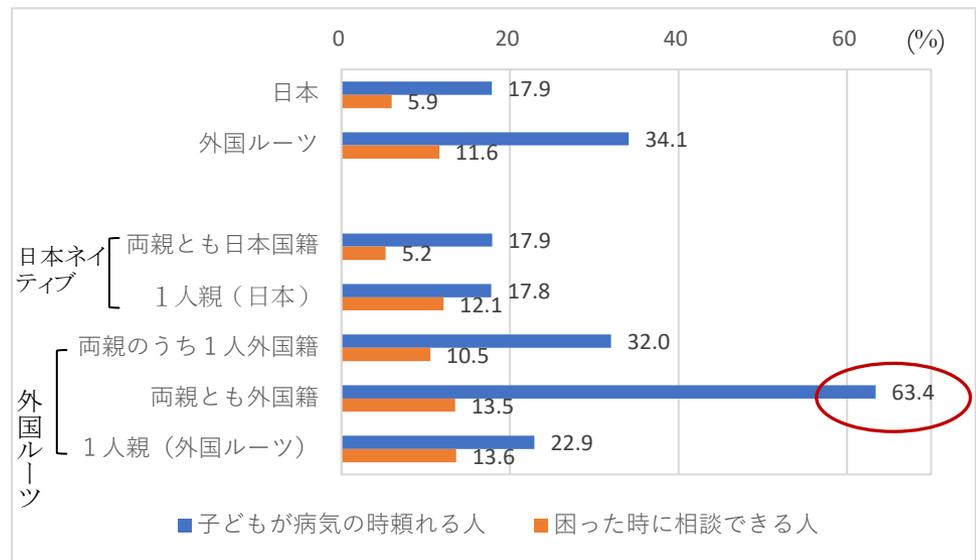
母親の就業状況は、ルーツによる違いよりも、世帯構成(1人親か否か)による違いが大きい。1人親では、就業割合が高い。両親とも外国籍の場合、母親の正規職の割合が高い(3割)。

子どものルーツ・世帯構成別にみた 支援ニーズ

就学援助金を受け取っているか



頼れる人が「いない」割合： 回答者＝母親



両親が外国籍のケースと、外国籍1人親のケースで、就学援助金を受け取っているかどうか、「わからない」ケースが多い。

外国ルーツの子どもの母親は、子どもが病気の時に頼れる人がいない割合が高い。特に、両親とも外国籍では60%を超える。

本報告のまとめと今後の課題

– 外国ルーツの保護者の多くは就労しているにもかかわらず、生活困難度は、外国ルーツの子どもで高い(全体で約3割。日本ルーツでは17.3%)。外国ルーツの1人親では6割を越える。

– 2人親の外国ルーツの場合、両親ともに外国籍よりも、両親のうち1人が外国籍の場合の方が、生活困難度は高い(17.8%、24.0%)。

* 調査は日本語で行われているため、この調査に回答できたのは、比較的日本語能力が高く学歴が高い保護者の可能性。生活困難度の状況は、過小評価の可能性。

* 他の地域の調査データでは、また大きく異なる可能性。

・一つの調査で、外国・日本ルーツを把握するための課題

– 保護者の国籍を問う設問の導入

– やさしい日本語を使った調査票の作成

– 外国ルーツの人たち特有の情報。外国ルーツの人たちの生活に大きな影響を及ぼす「日本語力」や「日本での居住年数」に関する設問

– 多様な外国ルーツの子どもとその家族を量的に把握するのに、サンプル数が足りない